

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年5月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892900010		
法人名	株式会社 桑林		
事業所名	グループホーム 江戸崎桑林	ユニット名	
所在地	〒300-0504 茨城県稲敷市江戸崎甲4864-3		
自己評価作成日	平成27年12月17日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892900010-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年2月23日	評価機関 決 済 日	平成28年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1 季節の行事・外出行事・誕生日会・外食等を毎月2～3回計画し、生き生きとした楽しみのある日常生活になるように努めています。</p> <p>2 入所者様の必要に応じて、職員が同行して買物や銀行に行けるように支援しています。</p> <p>3 週2回ほど入所者様の希望の献立で食事を提供しています。</p> <p>4 施設で猫を飼い、癒しの効果が出るようにして、家庭的で和んだ雰囲気になるように努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の近隣にはファミリーレストランや大型スーパー、銀行などがあり、日常的に利用者は職員と一緒に買い物や外食、散歩などを楽しんでいる。</p> <p>日頃から管理者は職員に話しかけてコミュニケーションを図り、何でも話せる人間関係と風通しの良い、働きやすい職場の環境づくりに力を入れているとともに、職員同士も信頼関係を築いている。</p> <p>職員は家庭的な雰囲気の中で利用者に寄り添い、行動を制限することなくその人らしい生活ができるよう支援している。</p> <p>季節の行事や外出行事、誕生日会、外食などを毎月2回から3回行う年間計画を立てて実行し、利用者がいきいきとした日常生活を送れるよう努めている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの玄関に理念を書いたボードを掲げ、職員や来訪者の目につくように掲示しています。	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、職員や来訪者が目にする事ができるように玄関に掲示している。 理念を日々各自で確認するほか、月1回の職員会議時に再確認して、共通認識のもとで実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、夏祭りの時など寄付をして地域に貢献しています。近くの美容室に散髪をお願いして来てもらっています。毎年、稲敷市主催の敬老会にも参加しています。	事業所は自治会に加入しており、利用者と職員と一緒に夏祭りや文化祭などの自治会活動や市主催の敬老会に参加し、地域の一員として交流ができるよう支援している。 年1回地域の中学生の職場体験を受け入れているほか、歌や踊り、ハーモニカ演奏など地域のボランティアを受け入れ、利用者が地域の人々とつながりながら暮らせるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受け入れて、認知症のある人の理解や支援の方法を伝えています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入所者ご家族と市役所の方から避難誘導の経路を指摘され、改善を図りました。又、包括の方から面白いレクの方法等も教えて頂きました。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、区長、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用状況や活動内容、行事予定を報告しているほか、参加者と意見交換を行っている。 避難経路について、「現状では不安ではないか」との家族等からの指摘を受け、職員会議で検討するとともに、防災避難経路相談会を開催して意見交換を行い、中庭からも避難できるように工事を行うなど、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に市役所や包括の方に実情、取組みを伝えていきます。 年に2回地域密着連絡会議に参加し、積極的に意見交換を行なっています。	管理者は運営推進会議や年2回開催する地域密着型サービス連絡会を利用して、市担当者に事業所の空き状況や取組みなどを報告するとともに、他の事業所も交えて情報交換を行っている。 管理者は提出書類などで分からないことがある場合は、市の高齢福祉課に直接出向いて助言を得ており、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関や勝手口の施錠をしていません。 日中自分の好きな時間に近くを散歩している方もおられます。 定期的に身体拘束排除の研修を行なっています。	管理者は身体拘束排除に関するマニュアルを作成し、それを基に内部研修を行っているほか、「身体拘束排除宣言」を玄関に掲示している。 全職員が身体拘束の内容とその弊害を正しく理解しており、居室や玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止の研修を行ない、認識を新たにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者様の年齢が上がってきており、これから必要になると思われるので、研修等に参加して、管理者、職員で学んでいきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分に時間をかけ、ご家族の方に説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。運営推進会議の時、入所者のご家族から毎回要望を聞いたり、面会時や家族会の時にも意見等を聞くようにしています。又、日頃から入所者様の要望を伺うようにしています。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、年1回の家族会などに意見や要望を聴くよう努めているほか、苦情相談受付窓口を重要事項説明書に明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 「管理者さんのフルートが聴きたい」との家族等からの要望を受け、出来るだけ皆が集まる時は演奏をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや朝礼、夕礼の時に出てくる職員の意見を聞くようにしています。	管理者は月1回の職員会議や朝礼、夕礼の時に職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 職員から出た意見を検討して備品を購入したり、勤務体制の変更など、運営に反映している。 管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や意見を聞いて行なっています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に内外の研修を受けるように勧めています。その際の費用は事業所で負担します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年に2回地域包括支援センター主催の地域密着連絡会議や、いなほ消防署主催による小規模社会福祉施設の研修会に参加し、問題点等を話し合っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、本人、家族、ケアマネ、利用していた事業所、病院などから情報を十分に集め、それをもとに施設で自分らしく安心して生活できるよう環境づくりや声かけ等を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、申し込み時、契約時など、家族より困りごとや要望を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がグループホームに何を求めているか良く話を聞き、他の施設やサービスが適していると思われる場合はその旨を伝え、近隣の施設や事業所、地域包括センターや高齢福祉課に相談できるよう支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除の一部をやってもらったり、布巾や洗濯物たたみ、食事の声かけ等をお願いし、役割を持ってもらうことによって支え合う関係を作っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の外出や受診の付き添い等お願いしている方がいらっしゃいます。又、本人の散髪をして頂ける家族もいらっしゃいます。野菜を出荷しているご家族が出荷は無理だがおいしく食べられる野菜を持って来て下さり食卓が豊かになっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者様の家族、親戚、友人、知人が来訪して下さっています。今後も来訪しやすい雰囲気づくりを継続していきます。祝儀や法事などで親戚や家族と外出される方も必要な内服やパットなどを預け支障なく外出できるようにしています。	職員は利用者との日常会話や家族等の話から、利用者の馴染みの人と場所の把握に努めているが、知り得た情報を記録に残し、職員間で共有するまでには至っていない。 職員は利用者の馴染みの人がいつでも気楽に来訪できるよう、お茶を出して接待するほか、自宅へ同行したり、家族等の協力を得て馴染みのスーパーや歯科医への受診など、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	利用者や家族等から知り得た情報を「申し送りノート」などに記載し、職員間で共有することを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入所者様同士の関係を大切にしながら、全員のレクや行事を行なうことで、入所者様全体のコミュニケーションを深めています。又、集団生活が苦手な入所者様には職員が個別で対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所された方が多く、中には亡くなられた方や、寝たきりになられた方もおられますが、施設からの問い合わせ、相談があれば応じています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入所者様の希望、意向を伺い、申し送りやミーティングの時、情報を共有して対応を話し合っています。	職員はアセスメントシートを活用して利用者の生活歴を把握するとともに、利用者がその人らしい暮らしが続けられるよう、日常の関わりや会話を通して希望や意向の把握に努めている。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や仕草、筆談から利用者の思いや意向の把握に努めるとともに、ケア会議で検討して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や家族会の時に家族、友人、親戚の方から情報を聞かせて頂いております。又、日々の生活の中で本人からも話を聞くこともあります。把握した情報はアセスメント表に反映し、職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の様子を記入し、職員間で把握しています。カンファレンスを行ない、現状について報告し話し合っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、必要時、医師、看護師の意見を聞き、カンファレンス時職員で話し合っって介護計画書を作成しています。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ、担当者会議で話し合い、計画作成担当者が意見をまとめ作成するとともに、毎月モニタリングを実施して6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。 モニタリングシートは事業所独自の様式を作成し、毎月の評価や見直しに活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者様とのコミュニケーションを取り、気が付いた事を記録しています。重要なことは申し送りノートに書いて、職員間で話し合い、速やかに実践できるようにはかっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歩行訓練やパズル、塗り絵等の手を使うリハビリも行っていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヵ月に1回位近くの美容室にリーズナブルな料金で散髪をお願いしています。稲敷市の招待で敬老会にも参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回7名の方は、協力医療機関の医師による往診を受けています。2名の方は希望の病院を受診しています。必要に応じて家族や主治医に相談しながら個別に専門医を受診してもらっています。	月2回協力医療機関の医師による訪問診療を受診できる体制になっているほか、かかりつけ医への受診は家族等が付き添うこととし、受診結果の報告を受けているが、家族等の付き添いが難しい場合や依頼があれば、職員が付き添って受診支援をしている。非常勤の看護職員が、週1回利用者の健康管理に来院しているとともに、24時間連携体制がとれている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、看護師の定期的な訪問を受けており、気が付いたことを相談し伝えていきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に紹介状を書いてもらったり、生活サマリーを提供し、入院治療が円滑に行なえるようにしています。入院中は時々病院を訪問し、経過を把握し、家族と病院と協力し、早期退院できるよう努めています。	/		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における看取り介護の指針とマニュアルを作成し、職員の勉強会を行なっています。これに基づいて本人、家族、職員と話し合い、支援していきます。	契約時に「終末期における看取り介護の指針」や「終末期における看取り介護マニュアル」を利用者や家族等に説明して同意を得ている。 事業所では利用者や家族等の希望があれば、協力医療機関の医師や看護職員と連携を図り、看取り介護を支援する方針である。 職員を対象に看取りに関する教育や研修を実施している。	/	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアル等から知識を高め、その状況を想像しながら、対応をシュミレーションしています。	/		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行なっています。災害時の水と食料を3日分備蓄しています。避難訓練の参加を近隣住民へ声かけをします。	年2回消防署立ち会いのもと、夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、実施記録を作成して訓練で明らかになった課題を全職員で話し合い、共有して次の訓練に活かしているが、前年度の課題でもあった、訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて3日分の食糧や飲料水、毛布、タオルなどを備蓄し、賞味期限等もチェックして管理している。	避難訓練に地域住民の参加を得るために、運営推進会議や自治会に協力を呼びかけるとともに、避難時の緊急連絡網に入ってもらうことを提案する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様の自尊心を傷つけないように配慮しながら声かけを行なっています。	職員は利用者の個性やこだわりを把握し、一人ひとりの人格を尊重しながらプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 管理者は「利用者の接し方について」の内部研修を行うなど、介護のプロとしての自覚と使命感について日々話をしている。 個人情報を使用する場合は、目的を明示して利用者や家族等の承諾を得ている。 個人情報に関する書類は、事務室の机の鍵のかかる引出に保管し、情報の漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様は職員に対して、自分の希望を話しています。速やかに対応ができない時や希望事態が適切でない時は職員間で話し合い、対応の仕方を検討しています。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活パターンの把握に努め、本人のペースを尊重しながら生活の支援を行なっています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容室の方が定期的に来てくれ、入所者様の希望に沿った散髪をしてもらっています。他の散髪屋に行かれる方やパーマをかける方もおられます。 職員付き添いで自分の服を買いに行かれる方もおられます。その日に着る服は自分で選んでいる方が半数いらっしゃいます。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に入所者様の好きな食事を作っています。パンの好きな方には、週に2回朝食に提供しています。時々食器の拭き上げを手伝って頂いております。	宅配業者によるカロリー計算された献立の食材が届き、職員が調理をして利用者と一緒に同じ食卓を囲みながら、温かい食事を提供している。 利用者は能力に応じて後片付けやテーブル拭き、食器拭きなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。 月2回は利用者の好きな献立を取り入れたり、月1回の外食や弁当持参で花見に出かけるなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	信頼のできる業者から食材を購入しており、栄養のバランスに配慮された献立になっています。その業者も定期的に変えてマンネリ化を防いでいます。各入所者様の健康状態に合った食事量を提供し、水分量も毎日記録し、水分摂取量が少ない方には声かけをし、時にはポカリ等を飲んで頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には、声かけや見守りを行なっています。自発的に行なう方が多くいらっしゃいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な時にトイレ誘導やトイレ介助を行なっています。 中にはもったいないという理由でパッドやリハパンを交換しない方がいらっしゃいます。 そういう時は職員が上手に諭して、なるべく不穏にならないように交換して頂いております。	職員は個別ファイルに記入した排泄記録を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、必要に応じて声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援している。 排泄の自立が出来ている利用者が多く、昼間は全ての利用者がパッドやリハビリパンツを使用しており、夜間もおむつを使用しないようにポータブルトイレを利用するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に水分摂取量を多くし、運動を積極的な行なってもらえるよう声かけをしています。排便を記録し内服や座薬によってひどい便秘にならないようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	概ね週3回入浴して頂いております。入所者様の体調や気分に合わせて柔軟に対応しています。	入浴は週3回を基本とし、利用者の希望にそって隣接しているデイサービスの風呂に入ることができるよう支援している。入浴を拒む利用者はおらず、利用者の殆どは楽しみながら入浴をしている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯を取り入れ、利用者が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者様自身のペースに合わせて就寝して頂いております。朝7時には全員起床され7時半に朝食を召し上がっています。短い昼寝をする方もいます。体調不良時は日中休んでいただいておりますが、基本的にお元気な時は日中起きて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明があり、職員はファイルやお薬手帳を見て把握しています。バイタルや体調の変化にも気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握し、好みのレクリエーションや趣味活動を行なっています。入所者様のお誕生日会や季節の行事を行なっています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	入居者様の希望に沿って、買物、銀 行、美容室等に出かけています。年 に3～4回外出食に出かけています。 気候の良い時には季節の花を見に 行ったり、ハイキングをしたり、ド ライブに行く時もあります。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩して五感 を刺激したり、四季の移り変わりを楽しめるよう 支援している。 事業所の車両を利用して初詣や花見、公園散 策、予科練平和祈念館訪問など、毎月外出支援を 行って気分転換を図っているほか、利用者の希望 にそって日用品の買い物や銀行、美容室に同行す るなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	3名の方は小遣い程度の現金をお持 ちです。 そのうち2名は通帳も自分で管理さ れています。6名は職員が出納帳を つけて、家族からの預り金を管理し ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	2名の方が時々職員の手助けを借り ながら携帯電話を使用して家族と連 絡を取っていらっしゃいます。他の 方は事業所の電話で家族にかけた り、かかってきた電話にでたりされ ています。 手紙を書かれる方は今はいらっしや いません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	色々な行事の写真、作品、花等を飾 り、明るい雰囲気づくりに配慮して います。ホールにはソファを配置し テレビを見たり、新聞を読んだり自 由に過ごせるように配慮していま す。	居間兼食堂は広くて明るく、壁には行事の写真 や習字、ぬり絵、ジグソーパズルなどが飾られ、 温かい空間になっている。 居間兼食堂の片隅には、ゆったりとしたソ ファやテレビを配置し、利用者が居心地よく過 ごせるよう工夫している。 廊下は広く手摺を設置し、歩行訓練や車いすで の移動がスムーズにできるよう工夫しているほ か、数ヶ所に加湿器を置いて湿度調整をし、安全 で過ごし易い環境になるよう努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席やホールのソファで気の合った入所者様同士が思い思いに過ごされています。 一人で読書などをして過ごされている方もいます。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物、趣味性のある物等を持ち込んでもらい、自分らしい居室に整えられています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれに合った歩行器、車イス、杖を使用して頂き、必要な場所には手すりを設置して安全に自由に施設内を移動できるようにしています。 備品庫には鍵を掛け安全に配慮しています。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム江戸崎桑林

作成日 平成28年6月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	8	職員は利用者との日常会話や家族等の話から、利用者の馴染みの人と場所の把握に努めているが、知り得た情報を記録に残し、職員間で共有するまでには至っていない。	各利用者の知り合いや馴染みの場所等、各職員が知り得た情報を記録し共有する。	利用者の情報を得た職員が「申し送りノート」に記載し、ミーティングで発表し職員間で情報を共有する。	1ヶ月
2	13	年2回消防署立会いのもと、避難訓練を実施しているが訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。	地域住民の参加可能な避難訓練を計画する。	2ヶ月くらい余裕を持って「避難訓練参加のお願い」というお知らせ文書を作成し、各戸に配る。その時に参加しやすい日時を調査しそれに合わせて日程を決める。またできれば緊急連絡網に入って頂く。	平成28年9月の避難訓練時に実施予定。以降半年毎に行う予定。
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。